

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

環境にやさしい地域づくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

広島県世羅郡世羅町

3 地域再生計画の区域

広島県世羅郡世羅町の全域

4 地域再生計画の目標

【地域特性】

世羅町は平成16年10月1日に旧甲山町、旧世羅町、旧世羅西町が合併して誕生した。町面積は278.29km²、人口は18,446人(平成21年8月末現在、住民基本台帳より)である。広島県の中東部に位置する本町は、東に府中市、南に尾道市、三原市、西に東広島市、北に三次市と周囲を5市に囲まれており、広島空港にも約36kmと近い位置にある。

地形は、町域のほとんどを占める通称「世羅台地」と呼ばれる標高350m～450mの小起伏山地と、その他芦田川や美波羅川等沿いの扇状地性低地から構成されている。また、町域は、瀬戸内海に流れる芦田川水系と日本海に流れる江の川水系の分水嶺となっている。

本町の基幹産業は農業であり、広島県の農業粗生産額の約1割を占め、県の重要な食料基地となっている。本町では、特に畜産業が盛んであり、本町の農業粗生産額の約半分を占めている。養鶏業、養豚業、酪農業、肥育牛事業のいずれもが県内有数の規模であり、事業者の大規模化が進んでいる。

一方で、本町は豊かな自然と穏やかな気候に恵まれていることから、花や果樹などの観光農園が農業者により開設されている。平成19年の町内への総観光客数は約206万人に達し、「花観光の町せら」、「フルーツ王国せら」として知名度が上昇しており、本町の特性を活かした観光交流活動を積極的に推進しているところである。

しかしながら、その観光交流活動の妨げになっているのが、大規模化した畜産事業者から生じる環境問題である。畜産業が盛んであるため、畜産農家より相当量の家畜糞が排出され、製造される堆肥量も相当量となる。一方で、耕種農家においては、化成肥料に依存した営農体系であったため、畜産堆肥が十分普及できていない。そのため、町内の堆肥の需給バランスが崩れ、貯蔵量が増えることで糞尿処理にも支障をきたし、これらによる悪臭や衛生害虫などにより周辺環境に悪影響を及ぼし、観光客等からの苦情の原因となっている。

家畜排せつ物の処理が進まない現状は畜産の更なる大規模化・効率化を阻害しており、重要な資源である家畜排せつ物の活用が十分に図られていない。

また、古くからの畜産地帯であるため、畜舎及び内部設備が老朽化しており、健全な畜産経営体の発展を阻害しているとともに、生産性が低いことから生産施設以外の施設

への投資が進まず、家畜排せつ物処理施設の整備にも影響を及ぼしているといえる。

【目標】

本町では「産業が元気なまち」を基本コンセプトに、畜産事業者の生産システムを効率的で環境に配慮したものに更新を図る。また、畜産事業者を支援し、畜産業の発展の障害となっている過剰な家畜排せつ物の有効利用を検討し、これを含めた未利用資源の有効活用を図るため、バイオマスタウン構想を策定する。

具体的には、生産システムを町内1地区で更新することで生産コストの軽減を図り、家畜排せつ物処理施設を町内2地区で整備することで周辺への環境問題を軽減する。

バイオマス資源の利活用を通じ、畜産堆肥を活用した土づくりを促進し、化学肥料・農薬に頼らない農産物を生産する地域循環型農業システムを構築する。また、そのことで堆肥の循環を図り、環境負荷の低減を図る。特に高齢化が進む町周辺部の耕作放棄地等で利活用することで土壌改良を図り、農地への復元を促進する。

家畜排せつ物処理施設内の処理過程でバイオマスボイラーの焼却熱を回収し、畜舎の冷暖房設備へ転換することで環境負荷の低減に努める。

これらにより、畜産環境の改善を図り、健全な畜産経営体を育成するとともに、家畜排せつ物をはじめとするバイオマス資源を活用した新産業（バイオマスエネルギー事業：バイオガス、バイオディーゼル燃料等）を育成する。

（目標1）バイオマス利用率

廃棄物系バイオマス 現在利用率 73%→90%以上

廃棄物系バイオマス：家畜排せつ物、廃食用油、剪定枝、刈草

未利用バイオマス 現在利用率 2%→40%以上

未利用バイオマス：間伐材、農産物残渣、果樹剪定残渣、松食い虫被害木

（目標2）バイオマス関連企業新規誘致

新規誘致企業数：2社

（目標3）生産システム（成鶏ゲージシステム）、ウインドレス鶏舎、家畜排せつ物処理施設を整備する。

生産システム（成鶏ゲージシステム）：5棟

ウインドレス鶏舎：5棟

家畜排せつ物処理施設：2箇所

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

本町の畜産業の中でも中核を担う養鶏業の低コスト化を図るため、積極的に生産システムの更新を行う。特に、高病原性鳥インフルエンザ対策にも優れ、周辺環境に配慮したウインドレス鶏舎を設置する。また、畜産事業所の周辺環境への負荷軽減、有機資源の有効活用を図るため、家畜排せつ物処理施設を整備する。加えて、町内における間伐材、農産物残渣等の未利用資源の有効活用を図るため、世羅町バイオマスタウン構想(仮称)を策定するとともに、バイオマス施設の整備を推進する。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

B1003 地域バイオマス利活用交付金

地域バイオマス利活用交付金を活用して、以下の取組を行う。

(地域バイオマス利活用推進交付金)

事業名：世羅町バイオマスタウン構想(仮称)策定事業

事業主体：世羅町

事業期間：平成21年度

事業費：2,200千円(うち国費1,100千円)

事業概要：平成20年度広島県バイオマスエネルギーネットワーク推進事業で行った基礎調査を基に、世羅町におけるバイオマスの有効利用に係る基本方針を検討し、バイオマスによる新規事業の創出、既存産業(農林業等：果樹残渣、間伐材、廃材の処分ができるため)の活性化、地域コミュニティの形成(タウン構想策定によりバイオマスへの関心が高まり廃油等資源の回収をすることでコミュニティ活動に繋がる)及びバイオマス資源循環の普及・啓発を推進するため「世羅町バイオマスタウン構想(仮称)」を策定する。

B1005 強い農業づくり交付金

事業名：産地競争力の強化に向けた総合的推進家畜飼養管理施設整備
(ウインドレス鶏舎の整備)

事業主体：有限会社 津口ファーム

事業期間：平成21年度～平成23年度

事業費：489,644千円(うち国費244,822千円)

事業規模：ウインドレス鶏舎5棟(生産システム(成鶏ゲージシステム)5棟)

事業概要：既存の鶏舎が開放型であり、金網等で開口部を防いでいるため野鳥などの進入はないが、外気が自由に入り込むため外部環境に影響されやすいこ

とや、鶏舎の臭気が外部へ出ることため周辺住民からの悪臭問題が懸念される。また、施設が老朽化していることで修繕費等がかかることからコスト高になっている。ウインドレス鶏舎を整備することで閉鎖的な環境を作り、高病原性鳥インフルエンザ予防のための野鳥対策に効果的であり、また、生産システム（成鶏ゲージシステム）を整備することで効率化、低コスト化を図る。

6 計画期間

認定の日から平成 26 年 3 月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

町は目標の達成状況評価については、生産システムの更新、すなわち、生産施設の建設を行った畜産農家からの聞き取りや、バイオマスタウン構想の策定結果、バイオマス関連施設の整備状況の実態を踏まえ評価を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし